

「高校衛看」においては、就業率『50%未満』ではあるが、3校（4.7%）で就業している学生がいた。しかしながら、全日制と定時制との就業人数から、全日制ではほぼ就業している学生はいないといえよう。このことは、「3年課程」においてもいえる（表30を参照）。

「准看学校」では、学生全員が就業している学校が、58.1%あった。

「進学コース」では、53校（20.1%）の学校の学生が、全員就業していた。しかしながら、この53校のうち50校（36.8%）が定時制の学校であった。

### 3. ま と め

以上より、各課程における在校生の就業の特徴をまとめると、以下の通りである。

「高校衛看」では、全日制の学生のほとんどが就業をしていない（2名のみ）。定時制の学生は、49.8%が就業している（全体では1.5%）。就業場所としては、診療所（63.6%）の方が病院（36.4%）に就業している学生よりも多い。

「准看学校」では、84.6%の学生が就業し、学生全員が就業している学校が58.1%もあり、各課程の中で一番割合が高い。就業場所としては、診療所（32.5%）より病院（67.5%）に就業している学生の方が多。

「進学コース」では、全日制の学生の5.3%ほどしか就業していない（全体では59.1%）。定時制の学生は、84.4%が就業しており、全員が就業している学校が20.1%ある。就業場所としては、診療所（15.5%）より病院（84.5%）に就業している学生の方が多。

「3年課程」では、全日制の学生のほとんどが就業をしていない（6名のみ）。定時制の学生は、73.6%が就業している（全体では3.6%）。就業場所としては、診療所（21.9%）より病院（78.1%）に就業している学生の方が多。

「短大」と「大学」では、就業している学生はいない。

## V 学校 の 設 備

### 1. 特別な教室や部屋

看護教育にかかせない「実習室」、「実験室」、「調理実習室」、「演習室」、及び「その他の教員活動で利用できる部屋」、さらに、「専任教員室・研究室」や「非常勤講師の控室」について、専用・兼用別をたずねた。その結果が、表33である。

「実習室」は、各課程ともに9割以上の学校が設けていた。実習室を設けている学校のうち、専用の実習室を設けているのは、各課程ともに7割以上であった。

看護教育調査

表33 特別教室や部屋の有無と専用・兼用別

			高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大 学	全 体
実習室	ある	専用	60< 93.8>	228< 83.2>	200< 77.5>	251< 86.0>	38< 86.4>	8< 80.0>	785< 83.3>
		兼用	3< 4.7>	37< 13.5>	47< 18.2>	22< 7.5>	3< 6.8>	0< —>	112< 11.9>
		無回答	1< 1.6>	9< 3.3>	11< 4.3>	19< 6.5>	3< 6.8>	2< 20.0>	45< 4.8>
		回答数	64(100.0)	274( 98.2)	258( 97.7)	292( 97.3)	44(100.0)	10(100.0)	942( 98.0)
	ない	0( —)	5( 1.8)	3( 1.1)	7( 2.3)	0( —)	0( —)	15( 1.6)	
実験室	ある	専用	35< 57.4>	84< 55.3>	141< 64.1>	204< 77.6>	22< 59.4>	6< 66.7>	492< 66.3>
		兼用	22< 36.1>	65< 42.8>	72< 32.7>	45< 17.1>	13< 35.1>	0< —>	217< 29.2>
		無回答	4< 6.6>	3< 2.0>	7< 3.2>	14< 5.3>	2< 5.4>	3< 33.3>	33< 4.4>
		回答数	61( 95.3)	152( 54.5)	220( 83.3)	263( 87.7)	37( 84.1)	9( 90.0)	742( 77.2)
	ない	3( 4.7)	127( 45.5)	41( 15.5)	36( 12.0)	7( 15.9)	1( 10.0)	215( 22.4)	
調理実習室	ある	専用	14< 23.3>	119< 63.6>	128< 59.0>	193< 74.5>	27< 71.1>	6< 60.0>	487< 63.4>
		兼用	43< 71.7>	62< 33.2>	83< 38.2>	53< 20.5>	10< 26.3>	1< 10.0>	252< 32.8>
		無回答	3< 5.0>	6< 3.2>	6< 2.8>	13< 5.0>	1< 2.6>	0< —>	29< 3.8>
		回答数	60( 93.8)	187( 67.0)	217( 82.2)	259( 86.3)	38( 86.4)	7( 70.0)	768( 79.9)
	ない	4( 6.3)	92( 33.0)	44( 16.7)	40( 13.3)	6( 13.6)	3( 30.0)	189( 19.7)	
演習室	ある	専用	12< 57.1>	47< 43.1>	56< 48.7>	89< 63.1>	27< 77.1>	6< 66.7>	237< 55.1>
		兼用	7< 33.3>	55< 50.5>	55< 47.8>	44< 31.2>	7< 20.0>	0< —>	168< 39.1>
		無回答	2< 9.5>	7< 6.4>	4< 3.5>	8< 5.7>	1< 2.9>	3< 33.3>	25< 5.8>
		回答数	21( 32.8)	109( 39.1)	115( 43.6)	141( 47.0)	35( 79.5)	9( 90.0)	430( 44.7)
	ない	43( 67.2)	170( 60.9)	146( 55.3)	158( 52.7)	9( 20.5)	1( 10.0)	527( 54.8)	
教員活動で 利用できる 教室	ある	専用	20< 44.4>	68< 48.9>	67< 51.5>	69< 52.7>	25< 67.6>	4< 50.0>	253< 51.6>
		兼用	18< 40.0>	65< 46.8>	56< 43.1>	58< 44.3>	9< 24.3>	2< 25.0>	208< 42.4>
		無回答	7< 15.6>	6< 4.3>	7< 5.4>	4< 3.1>	3< 8.1>	2< 25.0>	29< 5.9>
		回答数	45( 70.3)	139( 49.8)	130( 49.2)	131( 43.7)	37( 84.1)	8( 80.0)	490( 51.0)
	ない	19( 29.7)	140( 50.2)	131( 49.6)	168( 56.0)	7( 15.9)	2( 20.0)	467( 48.6)	
専任教員室 ・研究室	ある	専用	35< 79.5>	98< 71.0>	80< 69.6>	97< 75.2>	42< 95.5>	7< 77.8>	359< 74.9>
		兼用	8< 18.2>	39< 28.3>	26< 22.6>	26< 20.2>	1< 2.3>	0< —>	100< 20.9>
		無回答	1< 2.3>	1< 0.7>	9< 7.8>	6< 4.7>	1< 2.3>	2< 22.2>	20< 4.2>
		回答数	44( 68.8)	138( 49.5)	115( 43.6)	129( 43.0)	44(100.0)	9( 90.0)	479( 49.8)
	ない	20( 31.3)	141( 50.5)	146( 55.3)	170( 56.7)	0( —)	1( 10.0)	478( 49.7)	
非常勤講師 の控え室	ある	専用	17< 40.5>	75< 44.9>	110< 56.1>	156< 66.7>	24< 54.5>	5< 71.4>	387< 56.1>
		兼用	23< 54.8>	86< 51.5>	74< 37.8>	59< 25.2>	17< 38.6>	1< 14.3>	260< 37.7>
		無回答	2< 4.8>	6< 3.6>	12< 6.1>	19< 8.1>	3< 6.8>	1< 14.3>	43< 6.2>
		回答数	42( 65.6)	167( 59.9)	196( 74.2)	234( 78.0)	44(100.0)	7( 70.0)	690( 71.8)
	ない	22( 34.4)	112( 40.1)	65( 24.6)	65( 21.7)	0( —)	3( 30.0)	267( 27.8)	
無 回 答			0( —)	0( —)	3( 1.1)	1( 0.3)	0( —)	0( —)	4( 0.4)
学 校 総 数			64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)

註) < > 内の数字は、回答数を母数とした%で、( )内の数字は、学校総数を母数とした%

「実験室」は、「准看学校」を除いた各課程では、8割以上の学校に設けられていた。「准看学校」では、実験室を専用、兼用問わずに設けている学校が53.4%であった。また、実験室を設けている学校のうち、専用の実験室を設けているのは、各課程とも5割以上であった。

「調理実習室」は、「准看学校」と「大学」を除いた各課程では、8割以上の学校に設けられていた。「准看学校」や「大学」では、調理実習室がない学校がそれぞれ33.0、30.0%あった。また、調理実習室を設けている学校のうち、専用の調理実習室を設けている学校は、「高校衛看」を除いた各課程では、6割以上の学校にあった。

「演習室」は、「短大」や「大学」では、それぞれ79.5%、90.0%の学校で設けており、それ以外の各課程では、演習室を設けていない学校の方が5割以上と多かった。また、演習室を設けている学校のうち、「准看学校」と「進学コース」を除いた各課程では、専用の演習室を設けている学校が5割以上あった。

その他に、「その他の教員活動で利用できる教室」を設けている学校は、「高校衛看」と「短大」や「大学」では7割以上あり、それ以外の各課程では、5割未満であった。また、そのような教室を設けている学校のうち、「高校衛看」と「准看学校」を除いた課程では、専用の教室を設置している学校の方が5割以上で兼用よりも多かった。

「専任教員室や研究室」を設けていない学校が、「准看学校」や「進学コース」、「3年課程」において、それぞれ50.5%、55.3%、56.7%あった。また、そのような部屋を設置している学校の7割以上が専用の部屋であった。

「非常勤講師の控え室」は、各課程とも6割以上の学校に設置されていた。また、そのような部屋が設けてある学校のうち、「高校衛看」や「准看学校」を除く各課程では、専用の部屋を設けている学校が5割以上あった。

## 2. 図書室や図書館

学校の施設の中で、特に、図書室や図書館の役割は非常に重要と考えられる。というのは、図書室や図書館は、単に図書の収集や貸出をしているだけではなく、あらゆる情報の集積場所だからである。そこで、「図書室や図書館の専用・兼用別」「図書の管理者」「蔵書数」についてたずねた。

### (1) 図書室や図書館の専用・兼用別

図書室や図書館が専用であるのか、兼用であるのかについてたずねたのが、表34である。

「大学」を除いた各課程とも、専用の図書室や図書館をもっている学校が5割以上あった。「短大」や「大学」においての『その他との兼用』は、看護以外の学部や学科などとの兼用であると考えられる。

『他の課程との兼用』を加えると、各課程とも9割以上の学校が、図書室や図書館をもっており、専用兼用合わせれば、無回答の学校を除くすべての学校で図書室や図書館があり、設置基準を満たしていた。

看護教育調査

表34 図書室や図書館の専用・兼用別

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
専用	35(54.7)	198(71.0)	189(71.6)	272(90.7)	27(61.4)	4(40.0)	725(75.4)
各課程との兼用	23(35.9)	34(12.2)	60(22.7)	19(6.3)	16(36.4)	5(50.0)	157(16.3)
その他との兼用	6(9.4)	46(16.5)	13(4.9)	9(3.0)	1(2.3)	1(10.0)	76(7.9)
無回答	0(—)	1(0.4)	2(0.8)	0(—)	0(—)	0(—)	3(0.3)
学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)

(2) 図書の管理者

教員以外の図書の管理者をたずねたのが、表35である。

「高校衛看」や「短大」、「大学」においては、『司書』が図書を管理している学校が5割以上あり、時に「短大」や「大学」では8割以上であった。それ以外の各課程では、『教員以外はない』学校が4割以上と一番高い割合であった。

表35 図書の管理者（複数回答）

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
司書	33(51.6)	13(4.7)	54(20.5)	38(12.7)	35(54.7)	8(80.0)	183(19.0)
事務員	7(10.9)	103(36.9)	83(31.4)	108(36.0)	24(54.5)	7(70.0)	332(34.5)
教員以外はない	17(26.6)	154(55.2)	109(41.3)	129(43.0)	0(—)	0(—)	409(42.6)
その他	9(14.1)	9(3.2)	25(9.5)	45(15.0)	5(11.4)	0(—)	93(9.7)
無回答	0(—)	1(0.4)	6(2.3)	2(0.7)	1(2.3)	0(—)	10(1.0)
学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)

(3) 蔵書数

蔵書については、指導要領や設置基準によって、最低の蔵書数や専門雑誌数などが決められている。そこで、「蔵書数」及び、「定期購読の専門雑誌数」についてたずねた。

1) 蔵書数

蔵書の総数をたずねたのをまとめたのが、表36である。

1万冊以上の蔵書がある学校は、「高校衛看」と「短大」や「大学」では4割以上あり、特に「短大」や「大学」ではそれぞれ84.1%、80.0%と8割以上あった。その反面、「准看学校」では、蔵書が1,500冊にも満たず基準を満たしていない学校が、29.4%もあった。また、各課程で、蔵書数の基準を満たしている学校が7割以上あった。「短大」や「大学」で合わせて4校基準を満たしていない学校があるが、これは、学校全体では基準を満たしていると考えられる。

2) 定期購入の専門雑誌数

定期購読している専門雑誌を、外国の雑誌（洋雑誌）と日本の雑誌（和雑誌）別にたずねたのが、表37である。

表36 図書室や図書館の蔵書数

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
1500冊未満 <sup>1)</sup>	9(14.1)	82(29.4)	3(1.1)	0(—)	2(4.5)	0(—)	96(10.0)
2500冊未満 <sup>2)</sup>	5(7.8)	100(35.8)	16(6.1)	3(1.0)	0(—)	0(—)	124(12.9)
3500冊未満	0(—)	34(12.2)	38(14.4)	20(6.7)	0(—)	0(—)	92(9.6)
4500冊未満	1(1.6)	17(6.1)	48(18.2)	63(21.0)	0(—)	0(—)	129(13.4)
5200冊未満 <sup>3)</sup>	3(4.7)	7(2.5)	36(13.6)	54(18.0)	1(2.3)	0(—)	101(10.6)
6000冊未満	2(3.1)	9(3.2)	16(6.1)	25(8.3)	1(2.3)	1(10.0)	53(5.5)
7000冊未満	1(1.6)	11(3.9)	22(8.3)	36(12.0)	1(2.3)	0(—)	71(7.4)
8000冊未満	0(—)	1(0.4)	14(5.3)	29(9.7)	0(—)	0(—)	44(4.6)
9000冊未満 <sup>4)</sup>	5(7.8)	1(0.4)	11(4.2)	14(4.7)	0(—)	0(—)	31(3.2)
1万冊未満	3(4.7)	1(0.4)	7(2.7)	13(4.3)	1(2.3)	0(—)	25(2.6)
2万冊未満	15(23.4)	1(0.4)	22(8.3)	22(7.3)	12(27.3)	1(2.3)	73(7.6)
10万冊未満	12(18.8)	0(—)	13(4.3)	3(1.0)	21(47.7)	2(20.0)	51(5.3)
10万冊以上	0(—)	0(—)	0(—)	1(0.3)	4(9.1)	5(50.0)	10(1.0)
無回答	8(12.5)	15(5.4)	18(6.8)	17(5.7)	1(2.3)	1(10.0)	60(6.2)
学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)
平均蔵書数	11,858	2,363	7,248	6,938	34,672	172,714	8,967

註) 1) 准看護学校の蔵書の基準: 1,500冊以上

2) 看護学校の蔵書の基準: 2,500冊以上

3) 短大の蔵書の基準: 5,200冊以上

4) 大学の蔵書の基準: 10,000冊以上

日本の専門雑誌は、「高校衛看」を除く各課程で、10冊以上購読しており、特に「短大」や「大学」においては、平均で100冊以上購読していた。また、100冊を越えて雑誌を購入している学校が、合わせて18校もあった。「高校衛看」においては、平均で6.6冊で、しかも0冊や1冊という学校が各々3校も存在していた。

外国の専門雑誌になると、「短大」や「大学」を除いて、とっていない学校が5割を越え、特に「高校衛看」や「准看学校」ではそれぞれ90.6%、90.7%と9割を越えていた。外国の専門雑誌を100冊以上購入している学校は、合わせて5校であった。

外国や日本の専門雑誌をあわせてどのくらい購入しているかをみると、ほぼ日本の雑誌の購入と同じような傾向であった。

各課程とも、雑誌購入の最低基準以上の学校が7割以上あり、「短大」や「大学」では100%であった。しかしながら、「准看学校」や「進学コース」では、それぞれ22.6%、22.3%と2割を越える学校が基準を満たしていなかった。

### 3. ま と め

以上より、各課程における学校の設備の特徴をまとめると、以下の通りである。

「高校衛看」では、演習室(32.8%)を除いた特別な教室は、6割以上の学校で設けられており、特に、実習室や実験室、調理実習室は9割以上とほとんどの学校に設置されている。図書室は、専用に近い状

看護教育調査

表37 定期購入の専門雑誌数

		高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
和雑誌	0冊	3(4.7)	0(—)	0(—)	0(—)	0(—)	0(—)	3(0.3)
	1冊	3(4.7)	0(—)	1(0.4)	0(—)	0(—)	0(—)	4(0.4)
	2～9冊	39(60.9)	68(24.4)	8(3.0)	2(0.7)	0(—)	0(—)	117(12.2)
	10～19冊	12(18.8)	168(60.2)	55(20.8)	44(14.7)	1(2.3)	0(—)	280(29.1)
	20～29冊	2(3.1)	23(8.2)	132(50.0)	167(55.7)	6(13.6)	1(10.0)	331(34.4)
	30～99冊	1(1.6)	11(3.9)	51(19.3)	74(24.7)	24(54.5)	4(40.0)	165(17.2)
	100冊以上	0(—)	0(—)	5(1.9)	0(—)	10(22.7)	3(30.0)	18(1.9)
	無回答	4(6.3)	9(3.2)	12(4.5)	13(4.3)	3(6.8)	2(20.0)	43(4.5)
	学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)
平均購入冊数	6.6	12.4	31.6	25.8	114.9	162.6	27.2	
洋雑誌	0冊	58(90.6)	253(90.7)	178(67.4)	148(49.3)	1(2.3)	0(—)	638(66.4)
	1冊	1(1.6)	7(2.5)	35(13.3)	81(27.0)	0(—)	1(10.0)	125(13.0)
	2～9冊	1(1.6)	9(3.2)	29(11.0)	55(18.3)	12(27.3)	2(20.0)	108(11.2)
	10～99冊	0(—)	1(0.4)	10(3.8)	5(1.7)	26(59.1)	2(20.0)	44(4.6)
	100冊以上	0(—)	0(—)	0(—)	0(—)	2(4.5)	3(30.0)	5(0.5)
	無回答	4(6.3)	9(3.2)	12(4.5)	11(3.7)	3(6.8)	2(20.0)	41(4.3)
	学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)
平均購入冊数	0.1	0.2	1.7	1.1	61.9	220.3	5.5	
総数	0冊	3(4.7)	0(—)	0(—)	0(—)	0(—)	0(—)	3(0.3)
	1冊	3(4.7)	0(—)	1(0.4)	0(—)	0(—)	0(—)	4(0.4)
	2～9冊 <sup>1)</sup>	39(60.9)	63(22.6)	8(3.0)	2(0.7)	0(—)	0(—)	112(11.7)
	10～19冊 <sup>2)</sup>	12(18.8)	173(62.0)	50(18.9)	23(7.7)	0(—)	0(—)	258(26.8)
	20～29冊	2(3.1)	22(7.9)	134(50.8)	179(59.7)	3(6.8)	1(10.0)	341(35.5)
	30～49冊 <sup>3)</sup>	1(1.6)	10(3.6)	44(16.7)	74(24.7)	8(18.2)	2(20.0)	139(14.5)
	50～99冊	0(—)	2(0.7)	9(3.4)	8(2.7)	14(31.8)	1(10.0)	34(3.5)
	100冊以上	0(—)	0(—)	6(2.3)	1(0.3)	16(36.4)	4(40.0)	27(2.8)
	無回答	4(6.3)	9(3.2)	12(4.5)	13(4.3)	3(6.8)	2(20.0)	43(4.5)
	学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)
平均購入冊数	6.6	12.5	33.1	27.0	173.1	382.9	32.7	

註) 1) 准看学校の専門雑誌の基準：10冊以上  
 2) 看護学校、短大の専門雑誌の基準：20冊以上  
 3) 大学の専門雑誌の基準：50冊以上

態でほとんどの学校に設置され、しかも、2校に1校は、司書が図書を管理している。蔵書の数は、平均で11,858冊で、専門の外国雑誌については90.6%とほとんどの学校で購読しておらず、和雑誌と合わせた雑誌の平均購入数は6.6冊である。

「准看学校」では、演習室(39.1%)を除いた特別な教室は、5割以上の学校で設けられており、特に、実習室は98.2%とほとんどの学校に設置されている。図書室は、ほとんどの学校で専用に近い状態で設置され、教員(55.2%)や事務員(36.9%)が図書の管理にあたっている。蔵書の数は、平均で2,363冊と各課程の中で一番少く、基準を満たしていない学校が29.4%あり、各課程の中で一番高い割合である。専門の外国雑誌は、90.7%とほとんどの学校で購読していないが、和雑誌と合わせた雑誌の

平均購入数は12.5冊で、基準以上となっている。だが、22.6%の学校が雑誌の基準を満たしておらず、各課程の中で一番高い割合を示している。

「進学コース」では、特別な教室や部屋は、演習室と専任教員室（各々43.6%）を除いてほぼ5割以上の学校に設置されている。図書室は、専用に近い状態で設置されているが、図書の管理は、教員（41.3%）や事務員（31.4%）が行っている。蔵書の数は、平均で7,248冊で、基準を満たしている学校が86.0%である。雑誌は、平均で33.1冊を定期購入しているが、基準を満たしていない学校が22.3%ある。

「3年課程」では、演習室（47.0%）、教員活動に利用できる教室（43.7%）、専任教員室（43.0%）を除いた教室や部屋は、8～9割ほどの学校で設置している。図書室は、ほぼ専用に近い状態で設置されているが、図書を管理しているのは、教員（43.0%）や事務員（36.0%）である。蔵書は、平均で6,938冊であり、93.3%とほとんどの学校が基準を越えている。雑誌は、平均で27.0冊を定期購入しており、87.3%の学校で基準を満たしている。

「短大」や「大学」では、特別な教室や部屋は7割以上とほとんどの学校に設置されている。蔵書（各々約3万5千冊、約17万冊）や雑誌（各々173冊、383冊）も数多く購入され、基準を満たしている。

## VI 臨床実習

### 1. 臨床実習の問題点

臨床実習に対する問題点についてまとめたのが、表38である。

「大学」を除く各課程で、『臨床実習担当の教員の確保』に問題があると回答している学校の割合が54.5～69.0%と一番高く、「大学」でも、割合が一番高くはなかったが、70.0%と高い割合であった。

『実習施設の確保』が困難な施設や科目についてたずねた自由記述をまとめたのが、表39である。

「大学」を除く各課程で、母性看護関係の実習施設の確保が困難であると回答している学校の割合が6割以上と高かった。

表38 臨床実習の問題点（複数回答）

	高校衛看	准看学校	進学コース	3年課程	短大	大学	全体
実習施設の確保	28(43.8)	120(43.0)	146(55.3)	103(34.3)	16(36.4)	4(40.0)	417(43.4)
実習日程の調整	31(48.4)	144(51.6)	177(67.0)	146(48.7)	15(34.1)	8(80.0)	521(54.2)
臨床実習担当の教員の確保	38(59.4)	172(61.6)	184(69.7)	207(69.0)	24(54.5)	7(70.0)	632(65.8)
その他	15(23.4)	35(12.5)	39(14.8)	43(14.3)	6(13.6)	1(10.0)	139(14.5)
問題はない	7(10.9)	33(11.8)	16(6.1)	23(7.7)	8(18.2)	0(—)	87(9.1)
無回答	1(1.6)	3(1.1)	2(0.8)	2(0.8)	0(—)	0(—)	8(0.8)
学校総数	64(100.0)	279(100.0)	264(100.0)	300(100.0)	44(100.0)	10(100.0)	961(100.0)